

読んでもまったく身にならない、だけど ひとり酒の時間が少し楽しくなる 酩酊対話集



酒の穴

後藤徹也さん（イラストレーター）推薦。

もしかしたらこのふたりは山から降りてきた狸かなんかで、しばらく人間社会で人に化けてなんとかやってるけど、呑み屋に行っては人間観察や人への愚痴を言ったり、酒文化の面白さなどの報告なんかを呑気にやっているのでは、と想像してしまうような読後感がありました。

これはお酒です。

酒とは何か？ 神か？ 宇宙か？ 石か？ それともただの液体か——
酒と向き合い、飲み、時に飲まれながら語りあった1,000時間。
若手飲酒シーンを代表するふたりが千鳥足で挑む“酒の深淵”。

《収録内容》

波紋の発見／「生霊」はワークキャップをかぶっている／どうでもいいラブ／梶井／
行き着く先は「木」／コンビニ店員「三宅」／添える美学／ストロングゼロ／酒場の
キャプテン翼／死後横丁